

令和元年度 三重大学教育学部附属中学校 学校関係者評価

		本年度の活動	具体的な手立て	達成状況	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点
教育研究	公開研究会	<p>「社会の変化に対応できる生徒の育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員の話し合いによる研究テーマ・サブテーマの決定 <p>【ブレ公開研究会Ⅰ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 11月14日、15日に開催。 HPに案内や当日の様子を掲載する。 参加者に授業を観ていただき、生徒の様子等から研究テーマ・サブテーマについて助言をいただく。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体研究会にて職員が現状や課題について認識を出し合う中で研究テーマ・サブテーマを決定する。 教育行政の動向を見ながら、汎用性のある研究を目指す。 ブレ公開研究会Ⅰの参加申込書をHPに掲載することで参加を容易にする。 県内の各教科研究会に職員の参加を促し、本校のブレ公開研究会Ⅰへの参加を働きかける。 	<p>【ブレ公開研究会Ⅰ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者数 一般 48名 大学生・大学院生 63名 本校で育成したい6つの資質・能力及びルーブリックの提案、SDGsへの取組を含めた今後の研究の方向性の提案を行って、参加者から貴重なご意見をいただいた。 汎用性のある研究にまでは至っていないので、教育行政の動向を見ながら研究を深めていく。 ブレ公開Ⅱでフィールドを挙げ、保護者にも案内した。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科別協議会後、参加者から研究全体に関するご意見をいただく場を設定できた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 積極的な情報発信、広報活動 新学習指導要領に関する部分（パイロット校として） 新学習指導要領をふまえつつ、さらに将来を見通した提案を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 附中の研究成果を広く発信していく場として今後も公開研究会を大切にしてほしい。 参加者からの意見がどのようなもので、今後どのように取り入れていくかを明確に記述すべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学の教育学部以外にも対象を広げるとともに、保護者や企業等に対しても情報発信、広報活動を今後進めていく。
	日々の研究	<ul style="list-style-type: none"> 資質・能力という視点にたった教育研究を推進する。 大学の先生方と共同での授業、本校の研究への助言、大学生の講座などさまざまな連携を行う。 文部科学省、三重県教育委員会等の開催する研究・研修会に積極的に参加する。 県外の附属中学校の公開研究会など先行している研究をおこなっている研究会に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期ごとに1人1回以上の授業公開を行う。各教科においても教科部会を定期的に行い、研究を深める。 授業記録やデータをもとに事実に基づいた研究をすすめる。 一貫教育小委員会を通じて日程等を調整し、四附の職員がお互いの授業を参観し合い、事後検討を積極的に行う。 大学の先生方に授業をしていただいたり、大学生による授業の補助を活用する。ブレ公開Ⅰに向けての事前指導をいただく。 大学の講座の一環として大学生の授業参観を積極的に受け入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開及び授業参観が定期的に行われていないのが現状。教師の授業力向上につながる機会を研究部から設定する必要がある。 各教科が資質・能力が伸びる取組についてどのように捉えて授業実践を進めているのかを定期的に交流する必要がある。 保体の授業で大学の先生に授業をしていただいたり、理科、技術家庭科で大学生の授業参観を受け入れたり連携を行った。 文部科学省が主催する全国学力・学習状況調査や教科に関する研修会に参加した。 全英連三重大会の企画・運営や三枝家研の実践発表に積極的に貢献した。 教育行政の動向を探るために県内全域にわたって副校長による教委訪問を行った。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> SDGsを核にすることで、生徒の考え方や行動の幅が広がった。教員にとっては、担当教科が違う者同士でも共通の話題で対話しながら授業改善に取り組むことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員の中で研究のベクトルをそろえていくために、全体研究会を教員同士の対話で進められるように工夫する。 STEPから各教科へ、学習がどう関係していくのかを明らかにしたい。 大切にしていきたい育成したい資質・能力について、生徒との共有が十分にできておらず、生徒の声を聞く機会も設けられていない。来年度は、資質・能力に関する質問紙調査を生徒向けに実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> SDGsを核とする取組をしようとしていることは評価できる。 各教員の授業力向上のための研究を具体的に継続してほしい。 四附の連携を積極的におこなってほしい。 大学教員の持つ知を附属中学校に持ってくる工夫がほしい。 <p>・SDGsは、ブームとして終わるのではなく、具体的に学校教育カリキュラムとの連携性を示していただきたい。例えば1年生の理科の「この部分」がSDGsの「この部分」と連携してる等、の「見える化」を示していただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業記録やデータに基づいて研究を推進する。 育成したい資質・能力について教員や生徒と十分に共通理解を図る。 STEPと各教科との関連を一層明確にしている。
学習指導	少人数指導	<ul style="list-style-type: none"> 1・2年生英語科で少人数教育を実施する。 1・2年生数学科で、TTを実施する。 	<p><英語科></p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生は中1ギャップの視点で支援するため、さらに小グループでの学習機会を設定し、個に応じた指導を行う。 1クラス36名を2教室に分け、英文法を中心とした授業と教科書本文を使った聞く・話す授業を行う。 <p><数学科></p> <ul style="list-style-type: none"> T1、T2の役割分担を固定せず、時には生徒の立場で発言することで授業を活性化し、生徒の理解及び思考の深まりを目指す。 	<p><英語科></p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生ではTTによる授業、2年生では1クラスを2教室に分けて授業を行った。ペアやグループでの学習を多く取り入れ、積極的に英語を話す機会を増やしている。 <p><数学科></p> <ul style="list-style-type: none"> 1、2年生でTTによる授業を行った。 T1、T2の役割を柔軟に変えて授業を進めることで、生徒の対話が促進され、理解や思考の深まりが見られた。 	<p><英語科></p> <p>（成果）生徒は、ペアやグループ学習の中で互いに質問がしやすく、一人ずつの発表の機会が多いため、英語を積極的に使う姿が見られた。</p> <p>（課題）生徒個々の理解度やつまづきを把握して的確な指導を行う必要がある。</p> <p><数学科></p> <p>（成果）2人の指導者のかけあいを見て、生徒が疑問を持ったり、自分で考えたり、仲間と話し合ったりする主体的な姿が多く見られるようになり授業が活性化した。また、このスタイルで授業を行うことで教員のスキルアップにつながっている。</p> <p>（課題）生徒一人ひとりの理解の状況やつまづきの実態を的確に把握し、個に応じたきめ細やかな関わりや助言を一層行っていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 少人数教育は生徒にとっても教員のとっても効果がある。今後も積極的に進めてほしい。 	今後も継続する。
	学習環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 学び合う仲間が育つ学級・学年づくりを推進する中においても「つながりあう個」の理念を大切にし、一人ひとりをしっかりと育てる教育実践をする。 ICT機器の充実をすすめ、授業の質の向上、効率化を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクターや書画カメラを充実させ、iPadとの併用で授業の質的向上を目指す。 各教科が必要とされる備品もできる限り整備できるよう予算を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクター2台の整備を進め、各教科で活用できるように書画カメラを5台購入する等、ICT機器の充実を図っている。 各教科の備品要望（本年度分）は、全て充足した。 サーバの入れ替えを行った。 windows10への切り替えを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> サーバや教員のパソコン（10台）の入れ替えを行い、校務の効率化、安定化を図った。 今後も優先度を精査しながら全ての教科のICT機器の充実を図っていくこと。 生徒一人一台PC政策への対応 	<ul style="list-style-type: none"> 予算の絡むことであるが、生徒一人一台パソコンの配備を早急に進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習支援コンテンツサーバーシステムの活用やオンライン授業の実施、校務のICT化をさらに促進する。
教育実習	<ul style="list-style-type: none"> 大学との連携を密にして、円滑な実習をおこなう。 実習生の指導を通して、自身の指導力向上に努め、生徒理解を深める。 年間4名の教職大学院生の実習を受け入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 6月62名、9月63名の実習生に対し、数ヶ月前から事前指導をそれぞれ3回実施して、教科指導や学級経営指導を行う。また、メールで実習生と丁寧にやりとりして指導案指導など実習開始までの準備をしっかりとさせる。 教育実習の期間を研究の一環として位置づけ、実習生の教科指導を通して教員自身の授業を見直し、実習生の授業参観を通して普段とは違った角度からの生徒観察を行い生徒理解を深める。 教職大学院生の研究内容を共有し、その研究に積極的に協力する。 	<ul style="list-style-type: none"> 6月実習、9月実習ともに早い時期から事前指導を行い、実習生全員が無事に実習を終了した。実習困難な学生への対応や実習に向かう姿勢や取組の改善を図り、大学と連携しながら最後まで取り組ませた。 毎日の授業観察や授業検討会を通して、教員自身の授業力向上や生徒理解を深めた。 2月5日までに4名の教職大学院生を受け入れた。大学院生の要望を聞きながら、授業公開やインタビュー、個別指導など積極的に協力している。 	<ul style="list-style-type: none"> 6月、9月あわせて120名をこえる実習生が最後まで実習を行うことができた。一方で事前指導の段階で実習を断念する学生もいたが、事前に大学との連携がとれていたことでほぼ混乱することなく対応できた。今後も一層の連携を図っていきたい。 教職大学院生の附属実習については、4名受け入れて実習を行い、それぞれの学修テーマの深化とともに、校種の違いを通した学びを進めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの教育実習生にきめ細かく対応していることがわかる。 教育実習と教育研究のつながりが明記されるとうい。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習生一人ひとりに対応できるように、事前の情報共有や実習の評価等について大学と附属が連携を密にしていく。 	
キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 職業調べの実施（1年） 福祉に関わる講演会の実施（1年） 震災に関わる講演会の実施（2年） 福祉体験学習の実施（1年） 企業訪問（2年） 教育相談、進路相談の実施（全学年） 家庭訪問、保護者懇談会の実施（全学年） 大学附属連携事業の活用（全学年） 租税教室の実施（3年） 命を大切にする授業の実施（3年） 幼稚園訪問の実施（3年） 進路希望調査の実施（3年） オープンスクールへの参加（3年） 進路説明会の実施（全学年） 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳、特別活動、総合的な学習の時間を計画的に活用する。 福祉体験学習、企業訪問、教育相談、進路相談、家庭訪問、保護者懇談会、進路説明会については、例年通り学校行事に位置づけて実施する。 幼稚園訪問は、家庭科との連携で行う。 進路希望調査、オープンスクール参加は、3年の進路指導の中で実施する。 租税教室は、3年社会科と税務署との連携で実施する。 命を大切にする授業は、大学の救急救命との連携で実施する。 震災講演会は、社会見学時に宿舎に語り部さんに来てもらう形で実施する。 福祉に関する講演会は、1年の福祉体験学習の事前指導で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に学校行事、教科、道徳、総合的な学習、特別活動の時間数を調整し、バランス良く実施できるように計画した。 幼稚園訪問は10月、11月に3年の家庭科の授業で実施し、共同調理を行った。 命を大切にする授業は、3年保健と連携して実施した。11月5日に附属病院より医師、救急救命士、看護師を招いて救命措置の学習をした。 租税教室、福祉に関する講演会は現在まで未実施 防災講演会は、2年社会見学において、岩本しず子様を講師に開催した。 1年生の福祉体験学習は、10月に老人ホーム、介護施設等の協力を得て実施した。 3年生の修学旅行では民泊を通して、それぞれの生き方におけることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年とも特別活動や総合的な学習の時間を適正に運用し、年度当初の計画通り実施できた。家庭科と連携して行う幼稚園訪問や附属病院救急救命センターの医師、看護師を招いての学習は、附属学校の利点を生かした取組として成果である。 次年度も「命の学習」や「防災学習」など本校が大切にしている取組と学校行事に関わる時間を十分調整の上、年間計画を作成していきたい。また、大学とのつながりを生かした取組を継続・発展させ、なるべく負担軽減した形での実施を目指す。 SDGsへの取組を通して、さまざまな立場の大人とふれあい、これからの生き方を考えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 命の学習や防災についての取組は充実している。SDGsの取組もカリキュラムの中に取り入れている。 生徒一人ひとりの今後のキャリアデザインを見通した生徒の生き方教育への取組が必要である。 昨年度もキャリア教育について提案させていただいたが、同窓会OB、OGには素晴らしい経歴の方が多数みえるので、「ようこそ先輩」などの機会を設けてみたらどうか。ちなみに津高校では「有造塾」と題して、多方面から同窓生の講演などを生徒向けに行っています。また、ロータリークラブやライオンズクラブでも職業講話や「薬物防止講話」などを事業として行っているため、附属中学校も活用されてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学とのつながりを生かした取組を発展させるとともに、広く多方面にもキャリア教育の機会を設けていく。 キャリアパスポートを取り入れて、生徒が汎用的な力を身に付けられる取組を進める。 	

令和元年度 三重大学教育学部附属中学校 学校関係者評価

	本年度の活動	具体的な手立て	達成状況	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> いじめの未然防止と早期発見に取り組む。 ネットモラルの指導を進める。 生徒指導部を中心とした、一貫した指導体制と情報共有を行う。 部活動、交通安全、防災教育へ生徒指導部会が中心となって取り組む。 集団の育成と活気ある学級づくりを行う。 生徒会と連携して「あいさつ十宣言運動」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ひやかし、からかい、悪口等もすべていじめととらえて、報告するよう職員に周知・徹底する。 生徒指導部会を週1回開催し、報告シートをもとに常に情報共有・共通理解をはかることで、統一した指導をすすめる。 部活動ガイドラインに基づく取組、交通安全指導、防災教育の取組を統一して進める。 学級での係活動や班活動の充実を図り、一人ひとりが活躍できる場をつくる。 あいさつ運動では、教師から積極的にあいさつを行い、かならず一言加えることを意識する。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめの早期発見に向けて、定期的ないじめ調査を実施し、いじめが認められた場合は、適切に解決を図り、その後の経過を見守っている。 報告シートの活用を図りて情報共有・共通理解を図り、組織的な対応を推進している。 一斉下校時の交通指導の取組や本校単独の避難訓練を実施した。 あいさつは、教員自らが全ての生徒に積極的にあいさつしていくことを確認して取り組んでいる。 各学年、学級で工夫をしながら集団の育成を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめに対する教員の意識が高まり、認知件数も増えた。いじめの指導後もいじめが完全に治まったかを確認するためにいじめ対策検討委員会を開催し、情報共有しながら経過を観察している。 生徒指導部を中心に一貫した指導体制と情報共有は図られている。今後も学年の枠を越えた情報共有や指導が一層はかれるような全校指導体制を目指す。 あいさつについては、まだ十分とは言えないので継続して取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体で生徒指導を行っていくという体制が整ってきた。いじめの認知件数の増加やその後の取組も適切になされるようになっていく。 今後も地道に取組を進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も学年の枠を越えた迅速な情報共有とともに適切な指導が図れる全校指導体制を継続していく。
道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 昨年に引き続き、年間時数の確保につとめるとともに、指導内容や指導法について工夫し、考える道徳、話し合う道徳について実践を重ねる。特に、命を大切にすることを推進する。 道徳教育推進部会を中心に、学校全体で適切な評価方法について研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年で道徳の授業案づくりを積極的に行い、定期的に学年相互の授業参観を行う。事後検討会により指導の改善をはかる。 研修会への参加や先進校への視察により、道徳教育の研修をすすめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の指導案を各学年で検討し、指導方法の工夫を図るとともに、T Tによる授業を取り入れ、「考え、議論する道徳」を推進した。 ブレ公開研究会に向けて指導主事を招聘し、授業研究や検討会を実施し、11月15日に道徳の研究授業を公開した。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の指導案を学年会で検討し、内容によってはT T等の授業形態をとりながら「考え、議論する道徳」を実施した。生徒はペアワーク、グループワーク、全体交流等を通して、自己を見つめたり、物事を広い視野から多面的・多角的に考えたり、人間としての生き方について考えを深めたりすることができた。 研修会への参加や先進校の視察を行い、還流した。 道徳科の評価については、三重県教育委員会の教科連絡会議の助言をもとに、新学習指導要領、文部科学省「道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」報告を参考にし本校の2019年度道徳科に関する評価の基本的な考え方を道徳教育推進部会で作成し、職員会議において承認を得た。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別の教科「道徳」については、新学習指導要領を見据えて先進的に研究をつづけている姿勢が評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別の教科「道徳」の指導と評価について実践的な研究を進めていく。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりの教育的ニーズと保護者の思いを把握し、長期的な視点をふまえながら、適切な対応を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校と運動会や文化祭などの学校行事を通して生徒同士の交流をする。また、特別な支援を要する本校生徒の様子について情報共有し、必要な支援について特別支援学校の教員から助言を受ける。 特別支援部会を週1回開催し、SCとの情報共有をはかる。また、SCと学年集団との情報共有会を学期に1回設定する。 特別な支援が必要な生徒について、個別の支援計画を作成する。 ケース会議を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事を通しての特別支援学校との交流は定期的に実施されたが、連携の強化という点では不十分である。(現時点で支援学校の教員による視察や助言が行われていない) 部会の定期開催、SCとの情報共有は昨年同様に実施している。 個別の支援計画については、保護者の同意が得られ次第順次作成する。 小学校の担任や管理職も参加してケース会議を実施した。今後も継続的に開催していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援部会の中では、支援を必要とする生徒を外部の関係機関につなぐことができた。ケース会議も1回だけ実施することができた。 学校全体で困り感をもった生徒や支援を必要とする生徒の情報共有や支援体制づくりは、まだ不十分である。個別の指導計画、支援計画についても現段階では作成できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育は、生徒がだれでも学びやすい環境を作っていくうえで特に重要な教育である。特別支援部会を開催できたこと、また関係機関につなぐことができたことは評価できる。今後も特別支援学校と連携を図りながら取組を進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 困り感を持った生徒や、支援を必要とする生徒の情報共有し、具体的な支援の方法について共通理解を図り、支援にあたっていく。
国際理解教育	<ul style="list-style-type: none"> 教科や各学年、国際福祉活動部を通して、津ユネスコへの活動参加やESD教育に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃の教科の授業でESDに取り組むことが出来ることを担当者の授業参観を通して研修する。 英語科で地域のことを英語で発信するワンペーパーコンテストに参加する。 各学年による平和学習、防災学習、福祉体験学習の取組を生徒が、宣言や俳句、個人新聞等で発信する。 津ユネスコ協会の行事に積極的に参加し、古切手やはがきの取組をすすめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本次研究の中核としてSDGsを教育活動に取り入れている。試行錯誤しながらも、各教科等の学習内容や生徒会活動にSDGsの要素を入れようとしている。そうすることで、学校全体でESDを促進することができる。 英語科で地域のことを英語で発信するワンペーパーコンテストに参加した。 各学年による平和学習、防災学習、福祉体験学習の取組を生徒が、宣言や俳句、個人新聞等で発信した。 英語科で三重大学の留学生の授業参観を受け入れた。 	<ul style="list-style-type: none"> 【成果】 英語を使用する必要がある場を設定できた(ALT、留学生)。 SDGsをツールにして地球規模の問題に目を向けることができた。 【課題】 海外の学校との交流を持てるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 三重大学の留学生の授業参観の受け入れ等の機会を利用して英語を使用する場を設定するなど、積極的に取組を進めている。今後も様々な機会を設けて国際理解教育を進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動全般にSDGsの要素を取り入れながら、大学や企業、海外の学校とも交流も計画していく。
教育相談	<ul style="list-style-type: none"> 不登校生との対応をSC、養護教諭と連携しながら、学校全体で進める。 学校生活における生徒の悩みや思いなど生徒理解に努める。 教育支援センター等外部の相談機関との連携を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部の相談機関の教育内容を把握し生徒に紹介するなど、連携をすすめる。 部活休息日は、会議設定のために使うのではなく、教育相談や学級での作業など生徒との活動にあてる。 これまで同様、SCとの情報共有を密にし、不登校生徒の困り感の把握に努める。 毎学期、教育相談期間を設定し、生徒一人ひとりと教育相談を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校に登校できにくい生徒のなかで、今年度新たに2名が教育支援センターに通級している。 各学年とSC、養護教諭との連携は、今年度も密に行っている。 ライブの指導や学期ごとの教育相談では、生徒一人ひとりに寄り添い、悩みや困り感の把握に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校生徒の中で教育支援センターへ通級することによって将来について前向きに考え進路選択したり、学校へチャレンジ登校する生徒が見られた。 ライブの指導や教育相談の中から生徒個々の悩みやいじめ、問題行動等を把握して指導につなげることができた。 教育相談部会の中だけでなく全体への情報共有、連携をいっそう進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の生徒に寄り添った教育を展開するうえで教育相談の機能充実是不可欠である。今後も取組の充実を進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も継続する。
生徒会	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりが学校生活について考え、見直し、改善する。生徒の自治を大切に生徒会の運営をすすめる。 生徒主体の体育祭、文化祭等の行事の企画運営を行う。 あいさつ運動をはじめとする日常活動を充実する。 赤十字の活動へ積極的に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級会→生徒議会→(拡大生徒議会)→学級という流れを行事予定に位置づける。 生徒会だよりの発行による情報発信を行う。 意見箱によって生徒の自由な意見に耳を傾ける活動を継続する。 昼休みに体育館を開放して、生徒同士の交流を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部を中心に、意欲的な体育祭・文化祭が計画・運営された。 生徒議会、活動部会を毎月1回行うことができたが、行事についての取組が多かった。学校生活について見直し、改善する場となるような手立てを今後考えていく。 あいさつ運動、清掃活動、意見箱など日常活動も熱心に取り組んでいる。 生徒会を中心に赤十字のリーダー研修会やユニセフ主催のスマホサミットへの参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級会→生徒議会・活動部会の流れが毎月定期的な実施できたことは成果である。 体育祭や文化祭については、生徒が主体的に取り組む場面もあり成果はあるが、今後開催時期や他の行事との関連、教員の負担等の観点から一考する必要がある。 あいさつ運動や清掃活動は、全校に浸透するように効果的な方法を考えていく。 SDGsの取組を各活動部会が積極的に行った。赤十字やユニセフの活動へは今後も積極的に取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のための生徒による生徒会として活動が充実してきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も継続する。

令和元年度 三重大学教育学部附属中学校 学校関係者評価

	本年度の活動	具体的な手立て	達成状況	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点
教育環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・校内美化と施設設備の安全管理に努め、教育環境を整える。 ・風通しの良い職員室文化を醸成する。 ・働き方改革に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災の視点で施設設備の改善と危機管理マニュアルの見直しを行う。 ・保護者とともに防災会議をもち、備蓄品の整備をすすめる。 ・年間2回のクリーン大作戦(除草作業)を保護者、生徒とともにに行い、協力して学校環境づくりを行う。 ・報告・連絡・相談の徹底を図る。 ・時間外労働時間確認シートを活用し、勤務時間を意識した働き方を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み期間に漏水防止のために校舎棟の2、3階のベランダ改修やグラウンドでの授業や部活動中の生徒の安全確保の為に防球ネットへの処置を行った。 ・防災や美化について保護者と連携した学校環境づくりに取り組んだ。 ・働き方改革検討委員会を設置して、勤務時間の縮減について具体的な方策について討議した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎棟のベランダ改修やグラウンドの防球ネットへの安全措置を行うことができた。今後も危険箇所解消に向けて施設設備等の改善を大学に訴えていく。 ・年間2回の除草作業は、次年度も継続していく。 ・教職員の健康を守り、ゆとりをもって生徒に接していくための働き方改革に取り組んでいく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育環境を整える上で、教員の心身の健康が不可欠である。今後も働き方について様々な取組を進め、その成果を広く発信してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の安全確保とよりよい教育環境づくりに向けて施設設備等の改善を継続して進めていく。 ・働き方改革を推進し、部活動の休養日や完全下校時刻の見直しをはじめ、定時退校日の設定、休暇取得の促進、会議の時間の短縮等により、総勤務時間の縮減を図る。
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員会(学校関係者評価委員会兼任)を開催し、学校自己評価・関係者評価の活動を通して、学校運営を見直す。 ・学校通信、学級・学年だより、進路通信、保健だより等の発行による情報発信に努める。 ・HPの更新に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員会を年3回開催し、学校運営についての意見を集約する。また、PDCAがしっかり機能する学校関係者評価を作成する。 ・各種たよりによる情報発信と学校アンケートやいじめアンケートの公表等情報提供を行う。 ・HPの更新作業が出来る職員を各学年1名以上まで増やせるようOJTを行っていく。 ・育友会の活動をHPで紹介したり、運営に教員も積極的に助言・参加したりすることで、活動を活性化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員会は、計画通り年3回開催する。各評議員の意見を集約し、学校運営に反映できるよう努めている。 ・学級通信、学年だより、学校通信、HPによる情報発信を行っている。また、全生徒、保護者に学校評価に係るアンケートを実施した。その結果を学校経営に生かしていく。 ・6、8月のクリーン大作戦や7月の非常食試食など育友会と連携した取組を実施し、HPでその様子を紹介した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員会を計画通り3回開催し、各評議員から学校運営について意見や助言をいただけたのは成果である。学校関係者評価についてもPDCAがしっかり機能するように改善を続ける。 ・各種通信やHPによる情報発信は行ってきたが、HPの更新回数が時期によって差があるのが課題である。また、HPの更新作業が出来る職員は1名のまま増やすことが出来なかった。 ・育友会活動には積極的に協力・支援できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業研究会や教育実習生、各種研修会への場や内容の提供等、附属中学校の活動を、たよりやHPで広く伝えようと努力していることは伺える。 ・附属中学校の教育活動の取組は生徒の発信を今後も積極的に進めてほしい。 ・育友会には、学校内にとどまることなく、市P連や附属学校の特色である全附連からの情報収集や先進事例への取組を図っていただくことを強く希望する。特に全附連の研修会等へは多数の育友会役員が参加していただける環境づくり(例えば教育後援会予算から旅費を捻出するとか)を進めていただきたい。育友会・教育後援会・同窓会の役員は、地元でも顔見知りであるので、連携を図りより良い教育環境づくりに取り組んでいただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も継続する。